

でいろいろ家庭のことが載つてあるが、其違ふ特

色はといふと、子供育養のことを主にして居るの

であります。『お婆さんには三百文安い』こわれ

ぬ玩具』靖ちやんの危篤とその父の禁酒』を始め

子供のことについての記事が、全紙の半分も占め

て居るので分ります。頁は三十二頁ですが、其

割に読む所が多い様です。家の整理といふ欄に、

問答をのせて、例の『月收いくらで家族幾人、乙

の暮し方をたて、下さり』といつて來ると、此方

で、其會計を立て、やるといふ風のある、近來

の流行の様ですが、こんなのは一層ない方がとも

思はれますが、然し、又世間の人の心はさま

ですから。定價は六錢、月一回。(日向志評)

短歌募集集

隨意のこと

七月二十日限り

本誌文苑欄

三光に粗景を呈す

みどり短歌會

用紙隨意字体鮮明にして左記の所に

宛て送らるべし

伊勢國河藝郡稻生村

みどり短歌會

團 樂 真 宮 起 雲

平和の光りを得なばこと足ると靈火にやきぬ八千

卷のみ。

梅檀のふた葉薰するこのあした父とあふがむ自然